

Link

Linkは、わたしたちのNPOが市民と市民、市民と行政、市民と事業者、学校と市民、子どもと大人といった様々な人たちをリンク（Link：つなぐ）することを、そして心と心をつなぐことを目指します

発行人 今村久美子

〒191-0041日野市南平2-56-10

Tel&Fax 042-591-0248

E-mail: csc-hino@angel.email.ne.jp <http://www.angel-hino.com/>

シンポジウム

「日野市民から地球市民へ」

(2月13日)



会場いっぱいの参加者



パネラーのみなさん



市長も駆けつけて



女性のためのパソコン活用教室（3月全4回）

日野市とNPO法人、団体等の協働について

● 日野市企画部長 堀之内 和信

特定非営利活動促進法（NPO法）が制定されて約6年がたちます。

日野市基本計画「日野いいプラン2010」では、NPOの支援についても明記され、市民活動団体の自立や、NPO法人格認証取得を支援するとしています。

市では、市民活動団体の拠点として「市民活動支援センター」を設立するとともに、これらの自主運営やNPO法人の認証取得、団体運営の情報交換、交流の場としての活性化を図るために「市民活動団体連絡会」が発足し、協働による市との業務委託等の実現を推進しているところです。

連絡会では、市民や市に市民活動団体への理解と活動内容を知ってもらうために、NPOフォーラムの開催や、市職員研修「参画と協働」の連続勉強会に参加し、ワークショップなどを通して、実施可能な企画を提案しています。

一方、市は登録制度として「日野市非営利活動団体（NPO）業務受注希望登録事業」を制定して、受注機会の利便を図っているところです。

このような取り組みの結果によって、年々NPOの受注も増加し、平成16年度は市民サポートセンター日野にお願いしているファミリー・サポート・センター事業をはじめ、受

託は福祉・健康・子育て等の約24件となっており、今後も増えていこうと考えています。

しかし、職員の意識はNPOとの協働という事について、いまだに抵抗感があると思いますし、必ずしも理解されていないと考えています。今後も職員研修の徹底や、協働による実践を体験しながら、より幅広い協働を展開・推進していかなくてはならないでしょう。

また、NPO側の視点に立つと、非営利活動の枠組みだけでは組織運営上の困難を抱えることになり、継続的な活動を展開していくためには、ある程度の収益を確保しておくことも大切でしょう。いずれにしても、ある一定の時期には競争入札に参加し、業務受託をすることも視野に入れる必要があると思われます。

協働を推進していくためには、柔軟な思考がお互いに求められています。そして当然、この協働の結果については評価がなされ、市民に情報公開されると思います。

いずれにしても、市民サポートセンター日野との協働をはじめ、今までの実績も踏まえながら、より積極的に推進してまいります。



● 盛会だったシンポジウム

日野市民から地球市民へ

— 国連持続可能な開発のための10年へ向け —

去る2月13日(日)午後、ふれあい館に集まった人は、なんと107名！ 若者たちの姿も多い。70名入りのホールは“地球の今”を憂える人たちの熱気に溢れ、内容も定刻を30分超過する充実ぶり。空間も時間も予想を上回る反響にうれしい悲鳴を上げた態の、わがNPO二度目のシンポジウムでした。

馬場市長、河内助役、宮沢市議会議長を始め、都議や市議らを含めた多くの力強い日野市民のご参加を頂けたのもうれしかったのですが、高知や岡山・大阪・長野など遠方も含む日野市外から37名もいらしたことは、この企画が日本でも先駆的な催しだったことの実証のようで感激しました。

環境問題への取り組み方はこう変わる！

立教大学教授で、「持続可能な開発のための教育(=ESD)の10年推進会議」の代表として世界を視野に、遅々とした日本の動きを全力で引っ張る阿部治さんの基調講演が、まず私たちの頭に、今年からその10年が始まるESDの全体像を描いて見せてくださいました。

最近日本でも頻発している子どもを取巻く事件のおぞましさ、地球が汚れ、崩れてしまいかねない不安など、私たちが一様に抱く「なんとかしなくては」という思いから、この運動はまず、日本のNGOが声を挙げ、政府を動かし、第2回地球環境サミットで小泉首相により提案されたことが発端となっています。その後、2002年暮れの国連総会で全会一致で可決され、「さあ、世界中のみんなできちんと取り組もう」ということで国連の10年が始まったわけです。



基調講演の阿部治さん

その目標は、生きとしいけるものが安心して安全に幸せに生きられる地球をつくることで、そのためには教育が大切なのですが、これまでの環境教育とはいささか趣を異にしています。従来のように、「自然と人間との関係を改善しよう」というばかりでなく、人と人との関係も見直す。そこから、

平和、途上国開発、人権、貧困、福祉、人口、社会・経済の持続性と、課題はどんどん広がってきます。同時に、これまではバラバラにとらえられていた問題がすべてつながり合い、少しずつ重なり合ってくるのです。そのすべての改革の根底に教育があるわけです。

でも、こうした大きな課題を前に私たち個人がどうしたらよいかわからないとひるむ必要はないのだと、阿部さんはおっしゃいます。改革の方向性としては「参画する力」、「共に生きる力」、「つなぐ力」をキーワードにトップダウンではなく、自分たちのまわりから仲間を広げながら進めていけばよいのだと。

では、何をどうやって？ この疑問に明確に答えてくださったのが、第三部のパネルディスカッションに登場してくださった面々でした。

「文化」の視点が加わったESD

第一部の基調講演が終わって、いささか固くなった心身をほぐしてくださったのは、ギターを抱えて颯爽と現れたきたにまさみさんでした。第二部の始まりです。

都の情報企画担当部長として、平日はIT推進の業務をこなす彼は、こうして週末には全国のNPO活動支援に行脚す



歌のメッセンジャー きたにまさみさん

る歌のメッセンジャー。この日も「早春賦」「あざみの歌」「おぼろ月夜」「コスモス」「無縁坂」「花」と、なつかしく、心にしみる歌の数々を美声に乗せて参加者全員の胸に届け、思わずみんなで唱和しました。

地元の平塚市で防災の取り組みをも熱心に進めておられて、持続可能な社会には防災の視点が重要ということで、阪神大地震で揺れている真最中を再現したコンピュータグラフィック映像も見せてくださいました。最後に「ふるさと」をみんなまで歌って終わりました。

第1部の阿部さんの講演の中に、E S Dの視点（社会、経済、環境）に四つ目として文化が加わったというお話があったのですが、これこそ文化であり、人と人とを結ぶ最強の手段だと、実感させられた一幕でした。

日野市民から地球市民への道筋

続いての第三部、パネルディスカッションは圧巻でした。パネリストは、行政から日野市環境共生部長の萱嶋信さん、NPO「Beすけっと」でホームヘルプ活動を続ける中村敏子さん、企業からは環境を調査・分析・管理・コンサルする会社を設立して34年になる飯田富美子さん、そしてスウェーデンに30年暮らし、国際環境NGOナチュラル・ステップ・ジャパン代表として講演・執筆活動や、企業や自治体の研修を手がける高見幸子さんの四人。コーディネータは当NPO事務局長の下重喜代が務めました。

多彩な顔ぶれですが、どなたもE S Dという言葉が生まれる前から、それぞれの立場とやり方で、社会を住みよくなる活動に取り組み、気がついてみたら、E S Dと結びつくことをやっているというわけなのです。

馬場市長のもとでゴミ改革に取り組み、市内のゴミ半減に力を尽くした萱嶋さんは、「市民の提案をやわらかく受け止めて行政に生かすためには、弱い行政でなければ」と、これまでに手がけた成功例を語り、市民の要求を先回りして満たしてあげるのではなく、今は敢えて寝た子を起こし、市民に考えていただき、いっしょに問題解決に当たるのだと、市民にはうれしくも厳しい発言。

11年前に18人で2万円ずつ出し合って作った組織が、い

まや売り上げ4千万円のNPOに成長した「Beすけっと」の中村さんは、「ホームヘルプサービスは相手との信頼関係が根幹なので、人づくりを心がけてきた」と言い、世話をしている子どもたちに日野の四季おりおりの自然の情景に目を向けさせたり、意識して声かけをしていると語ってくれました。「そういう会社ができる社会が助かる」と東京都の担当に言われて、1971年に自然豊かな日野に「世の中に役立つ会社」を設立した飯田さんは、仕事に男女の差はつくり、能力ある女性リーダーをどんどん登用していく過程で、育児期短時間勤務制度やフレックスタイムを導入するなど、女性が働き続けやすい職場づくりを整備し、462人の従業員の4割近くが女性という点でも、業界の先端を行く会社に育て上げています。

スウェーデン暮らしの長い高見さんは、幼児期からの一貫したエコロジー教育や、バックキャスト（成功した姿から逆算して、今どうするかを考える）の目的達成のための手法など、環境先進国の具体的事例を次々に紹介。「ウーン、さすが…」と会場をうならせました。

フロアからのいくつかの質問も含めて、最終的にたどりついた課題は、「次の世代に何が残せるか」ということ、子どもを取巻く問題です。市ができることは、子どもたちに自然の中で遊べる環境を残すことだと萱嶋さん。気がかりなのは日本のE S Dの先進事例でもある「総合的な学習の時間」が、ここへ来て見直されようとしていることです。

その動きに危機感を持つ意見もいくつか出され、指導者の養成に力を入れるなど、なんとか前向きに進め、深めていけないものかと、考えさせられました。

このシンポジウムを終えて、日野市民であることにチョッピリ誇りが持てました。参加して下さった方々が、「日野市民から地球市民へ」の足がかりをそれぞれに掴んで頂けたのではないかと思います。終了後の多くの感想文からその手応えが感じ取れ、達成感をもらいました。

日野市民以外の方たちには、それぞれの地域でこのイベント参加体験を生かして下さることを願っています。

（NPO市民サポートセンター日野 副理事長 早川裕子）

「女性のためのパソコン活用講座」を受講して…………… 菊地りえ

私は「多摩平の森ふれあい館」のコミュニティ・カフェと総合受付で活動しています。

アナログ人間の私は、携帯電話を持ちはじめたのも最近のこと。パソコンに関してはまるで未知の世界でした。でも将来への必要性を感じ、今回、思いきってNPO主催のパソコン講座を受講することにしました。

最初は用語の意味すらわからず、マウスやキーボードを相手に悪戦苦闘。ガチガチに肩が懲って緊張してしまいました。でも、10名の生徒に対し先生が4名もいらっしゃるの、ほとんどマンツーマンの実習指導となり、手を上げればすぐに

側に来て教えて下さいます。わからない事だらけでしたが1回目の講座が終了時には「面白い！興味がわいてきた」と感じました。

家に帰って早速、ノートパソコンを借り、側においてなるべく触れる様に心掛けています。いま2回の講座が終了、少しずつ進歩を感じ、気が付いたら次回の教室が楽しみになってきました。

まだまだ、入口の入口に立っている状態ですが、活動に生かせる日が近いように、上達を目指し、「パソコンに触れる日」を多く持つよう頑張りたいと思います。



工房を建てることから始めたお菓子屋 kage sweets(カーエ スウィーツ)

手を動かし、物をつくる事が好きな私は、何か一人でやれることはないかと、いろいろと考えた結果、お菓子屋なら出来ると思いました。2001年の年末のことでした。

始めるに当り、資金のないなか考えた末に、自宅の庭の一角(約1.5坪)を両親に提供してもらい、そこに工房を建てることを決意。しかしいざ建ると決めたものの注文建築や特注のログハウスキッドは、見積書を見ただけで目を回すほどの予算。そこで何か良い方法はないかと思索したあげく思いついたのが、以前から興味があった大工仕事。後は早いもので、自分の手で建てようと意気込み、右も左もわからないまま図書館で本を借りあさり、一から勉強しながら作業をスタートしたのは2002年春のことでした。この間、多くの方々の応援や励ましに助けられました。コツコツと大工仕事をして四ヶ月。やっと完成。

建てるにあたってこだわろうと思い、やるなら出来る範囲で良いものを、満足のいくものを作りたいと思いきり欲張りしました。建物は木造在来工法で取りかかり、塗料も安全性の高いものを使いたいと考えて、ヒノキの土台には柿渋を、外壁にはドイツ・オスモ社のものを使用しました。

建物や中の機材に必要な物を調べては東奔西走。バイクを飛ばし、探しまわったりもしました。

その結果、満足度の高いものに仕上がりに、言葉ではいい表せない程の貴重な経験をしました。振り返れば、軽い気持ちと勢いで始めたものの、想像をはるかに超える大格闘の末にやっと出来上がった工房です。

途中、慣れない手ノコや、ノミの手作業がたたり、お箸さえにぎれない程の腱鞘炎になり、一ヶ月も作業を中断せざるを得ないこともありました。でも、最高のスロライフでとても贅沢なスタートを切ったと自負しております。

そんな工房で無添加にこだわって手作りしているクッキーやパウンドケーキを、どうぞCafe Greenでお楽しみください。(プレゼント用にもご用意できます)



3階コミュニティ・カフェ「感謝・ディ」大盛況

通常は休業の2月28日の月曜日、日頃のご愛顧に感謝して、午後2時から4時までの間、サポーターのボランティアにより、コーヒーを100円でサービスさせていただきました。僅か2時間の間に初めてのお客さんを含む28人がご来店くださいました。

当カフェは、有機・無農薬そして開発途上国の生産者に利益が厚いフェアトレード(公正な貿易)によるコーヒー・紅茶を扱っています。これからの季節は窓からケヤキの美しい芽吹きが楽しめます。どうぞスローな時間をcafe Greenでお過ごしてください。

●あなたの力をがしてください! サポーター募集

当NPOでは、活動のサポート(手助け)をしてくださる方を募集しています。これから地域での様々な貢献活動が増えていくに従い、会員の皆様のご力は是非必要です。

活動の内容としては次の通りです。

- * 簡単な入力作業
- * ニュースの編集や発送作業
- * ホームページの更新
- * イベント企画や講座開催時のサポーター(受付、案内)

保育士、幼稚園教諭、看護師の資格をお持ちの方
子育て支援の分野などで、会員の皆様と一緒に資格やキャリアを生かす活動を開発していきたいと考えています。

まずはサポーターの登録をしていただけますよう、よろしくお願い致します。通信に同封の登録用紙に記入し、FAXあるいは郵送で下記までお送りください。

〒191-0062 多摩平2-6多摩平の森ふれあい館
NPO市民サポートセンター日野 電話 042-583-1528

●2005年度NPO会員募集

NPO市民サポートセンター日野が活発な活動を展開するためには、NPOの趣旨に賛同し、活動を支援してくださる皆さまのサポートなしには成り立ちません。ぜひ、会員の輪を広げるためにご支援くださいますようお願いいたします。また、寄付も常時受け付けています。

- 一般会員(活動に参加して下さるひと) 1,000円
- 賛助会員(活動を支援して下さるひと) 3,000円(1口)
- 法人会員(活動を支援して下さる法人) 30,000円(1口)
- 運営会員(運営に積極的にかかわるひと) 10,000円
- 入会金(一般会員、運営会員のみ1,000円)

会員特典 年3回の会報をお届けし、主催講座やイベント等にご優待します。

編集後記

NPOの事業をスタートして1年、慣れない中でスタッフ、理事者一同、必死で頑張り、多くの関係者のお力添えをいただき、当初の予定を超える事業成果を上げることができました。引き続き、二年度に向けてのご支援を頂きたくよろしくお願い致します。

